



第 46 号

発行日：令和6年3月15日
発 行：一中地区市民委員会
編 集：文化広報部会
事務局：一中地区公民館内
T E L：029-821-0104
世帯数：10,517戸
人 口：20,528人
(令和6年2月現在)



みんなの広場

雛に思う

中央二丁目 笹倉 秀子

春、三月三日の前後は日本中のあちこちからひな祭りの声が聞こえてくる。

我家には三人の娘がいる。長男ではない主人には宛が無い。兄にだけあつてという想いで、娘達にはそれぞれに七段飾り、立ち雛、木目込みの生まれたときから舞踊人形、フランス人形といただいた人形達と飾って祝ってきた。それに私の子供顔揃いの雛、母の太正時代の小ぶりの雛、



実家の祖母の雛。この雛は冠他、すべての飾りはなく新聞紙にくるまっただ人形だけがフタの抜けた桐の箱に詰まっていた。よくネズミにかじられなかったものだ。これだけで四代。親戚や嫁いだ娘の子(孫)の分までいつのまにか増えていった。古い雛も出てきたり、手元に回ってきたり、去年は九十九体の人形にかこまれていた。その人形を引き立てるかのように娘の姑さんがたくさんの吊るし雛やパッチワーク、手作りの雛等で我が家を赤く染めていってくれた。

この1カ月は華やかな家の中である。震災の時はこわごわ物置の中をのぞきにいつて、人形達が最小の被害であったことにほっとしたものだ。それまで二間を抜いて飾っていたが、補強をしたので半分しか使えなくなってしまった。押しくらまんじゅうのように飾ってある雛を見ると、伸び伸び飾ってあげたいと思ってみたが何だか出さない雛がかわいそうに思えてつい毎年出してしまつ。でもこのごろは出し入れがきつく感じるようになり、賑やかに飾れるのはいつまでか? と思つてしまつ。土浦の雛祭りが始まって今年で十九回。商店街で始まった祭りに三年目から本町商店街の一角として

我家も参加させていただいた。

今思つと、我家の雛なのにみんなに見てもらつて申し訳ないと思つていた。でも奥まつた我家にたどり着いた方々と色々とお話を聞かせていただいている。それは楽しいことです。決してきれいな雛ばかりではありませんが、それらがそれぞれの時代を経て集い飾られています。私は三月三日の夜、一人それらをながめ、「又来年、今夜はゆつくり楽しんでね。」誰に言うこともなくすべての人形に言う。この時が私の一年に一度の至福の時なのである。

サッカー応援と旅行

滝田一・二丁目 宮口 五郎

一昨年から妻とサッカー観戦にはまっています。「鹿島アントラーズを応援しにスタジアムへ行こう」と土浦市のホームページで無料招待の抽選に応募したのが始まりです。

一昨年は6試合、昨年は約30試合を観戦しています。

Jリーグには一部リーグ(J1)に所属するチームが今年より20チームとなり、ホームとアウェーの2試合を各チームと戦うリーグ戦、天皇杯やルヴァンカップ等のトーナメント



方式のカップ戦もあり、年間40〜50試合を戦います。

昨年のJ1所属チームは北海道から九州まで、14の都道府県に点在していましたので、旅行を兼ねて応援し

に行きました。京都では神社仏閣めぐりを、名古屋・大阪・広島・佐賀ではお城めぐりを、その他の地域でも名所めぐりをしました。そして、各地のグルメも楽しみの一つです。

楽しみは他にもあり、それは人との交流で、サポーターの多くはユニホームを着用しているので一目でわかります。試合中はもちろん、試合後の食事もユニホーム姿です。試合終了後の近隣のお店は敵味方の区別なく、サポーターでどこのお店もあふれています。当日の試合結果を振り返っている人も多くいますが、地方面に行く相手チームのサポーターの方が、お店の一押しグルメを教えてください、穴場の観光スポットを教えてくださいとサッカー以外の話

題で交流することも多くあります。

妻と二人でサッカー応援と旅行を楽しんでいます。一泊二日の強行スケジュールに、約2時間立ったままのゴール裏の応援、これは体力勝負です。へとへとになります。試合に勝つと一気に疲れも吹っ飛びます。(負けると疲れは倍増します)

鹿島アントラーズの優勝を願ってこれからも応援と旅行の二刀流で、長く楽しんできたいと思います。

皆さんも是非一度、鹿島スタジアムでサッカー観戦を楽しんでみてください、時間を忘れて夢中になれると思います。

川口壮年会 親睦旅行回想録

川口壮年会 副会長 飯田 尚生

秋は紅葉の季節であり、行楽のベストシーズンでもある。

川口壮年会では会員の親睦を図るべく毎年秋に旅行を実施していた。しかし、コロナ禍により、団体旅行を自粛せざるを得ない状態が続いていた。

昨年はコロナ明けにより、満を持して旅行再開することになった。さて、どのような旅行にするか、四年ぶりとなることから、思い切った飛

行機を使って北海道または沖縄、あるいは四国、九州はどうか、会員諸

氏からの熱い期待を背負って企画に悩んだ。最終的には会長の意向により、従来通り貸切バスを利用して行ける範囲とし、ホテル、食事等をより豪華なものにすることにした。福島県への一泊二日旅行である。

旅行タイトル『パスポートのいない英国でプチ海外体験&あの高級旅館で優雅なひとときを〜八幡太郎ゆかりの名湯で温泉三昧〜』

企画はできたものの、旅行手配がままならない。観光バス、旅館、昼食のお店、観光箇所のいずれも平日であっても非常に混んでいる。日本中の人が待ちわびて、旅行シーズンである秋に一齐に団体旅行が動き出したのである。そのため計画を変更し、コースを逆回りとし、昼食を予約不可のお店利用で当日対応すること等とした。

宿泊旅館は、プロが選ぶ日本のホテル・旅館百選で加賀屋(和倉温泉)と首位を競っている知る人ぞ知る高評判の宿である。温泉、食事、接客対応が宿泊料金以上に満足できるものである。特筆すべきは、二日目朝の出発時に大勢の旅館スタッフが玄関前から道路に出る通路までバ

スの左右に並んで見送りしてくれたことである。

二日目は、中世英国の城塞都市へのタイムトリップである。まさしく英国の田舎町にきた錯覚に陥る。また、ハリーポッターの映画の世界に入り込んだ気分でもある。特に昼食を取ったレストランは、同映画に出てくる寄宿舎の食堂での食事風景そのものである。

同所は中学・高校等が英語研修旅行で利用するところでもあり、施設内での公用語は英語であるが、私たちには日本語対応であった・・・。

ギフトショップにいた女子生徒に参加者が話しかけたところ、霞ヶ浦



高校附属中学校の生徒・教師ということで、意外な出会いもあった旅となった。

昔話にふりかへる

穴塚町 内山 賢昇

読者の方々もご存知の佐野子のカッパ。昔々桜川で馬を洗っていた所、馬が急に暴れ出し、ふと見ると奇妙なものが尻尾に付いたとの事。馬を洗っていた村一番の力持ち宇八どんは拳を振り上げそれに一撃を食らわし捕まえて、村のお寺である満蔵寺に連れて行き妙澤和尚に事の顛末を話し相談したところ、許してあげるようにと諭されました。しかし悪さばかりする河童をこのまま許すわけに行かないので、右手首を切り落として放したそうです。その後、カッパの手は懇ろに供養され、現在も当地に伝わっております。さて私は満蔵寺住職を兼務いたしております。この物語に登場する妙澤和尚とは如何なる師であつたか興味を持ち調べていたところ、ネット上で妙澤和尚の錦絵を見つけ入手いたしました。その資料によりますと、南北朝時代の臨済宗夢窓派の僧で、夢窓国師の僧童を経て、南禅寺・天竜寺に住し、臨川寺の住持となつたとあります。不動明王の仏画描写に優れ、自筆画には妙澤と署名しました。師匠にしかられながらも画才をみがき、ついには認められるに至つたこの事。今回入手した錦絵は明治の物で

あり、歴史教訓絵として紹介されておりました。



佐野子に伝わる伝承と照らし合わせると、妙澤和尚とはこの方であろうと確信いたしました。高名な画僧で不動様を深く信仰された師が何故当地に逗留されて居られたかは、これからの調査になります。和尚が実在の人物であるならば河童伝承に伝わる河童とは如何なる生物か、幻かUMA（未確認生物）か私の中で謎が深まってきております。佐野子に伝わる「河童の手のミイラ」は近年、マスコミにも取り上げられており、レントゲン写真まで撮影されました。伝承の形としてミイラが存在しておりますが、私は遙か昔から大切にされてきた理由に思いを馳せてしまします。水による事故が後を絶たなかった昔、例えば子供達を水難事故から守る目的で伝えられた物語も多いでしょう。

科学が発展していない当時だからこそ、何かしら情報を伝える為には物語が必要であったのだと思います

す。詳しく分析すれば妖怪の姿も見えてくるのかと思いますが、未来への夢を伝えるのも我々の役目です。

毎年六月第一土曜日に開催される佐野子のカップ祭り。昨年は大雨に見舞われ中止となりました。今年こそは祭りを開催して河童の手のミイラを皆様にご覧頂き、妙澤様の威徳を称えたいと佐野子の方々は思っています。

災害の多い昨今、今一度大昔からの注意喚起に目を向けてみてはいかがでしょうか。

文京町および周辺の散策

文京町 矢口一男

令和6年1月14日（日）文京町町内会の行事として文京町と周辺を散策し、住民の親睦を図りつつ町内周辺のことを学ぶことを目的として行った。

前日の夕方から小雨が降り、明け方からの低温により路面の凍結なども気掛りではあったが散策中は快晴となり天候にも恵まれた。

土浦市観光ボランティアガイド協会の方々の案内の下に文京町・立田町・田中一丁目・田中二丁目・千束町に及び以下のスポット（全行程約4.4km）を散策し、そのスポットに纏わるガイドを受けた。

- ① 西門と円馬出し
 - ② 郁文館について
 - ③ 神龍寺について（山本五十六居住跡地・「土浦八景」①）
 - ④ 文京町Ⅱ 旧西門町+旧下田町+旧外西町（一部）+旧内西町（一部）
 - ⑤ 浄真寺について（高野長英の精霊墓・久松五右衛門墓等）
 - ⑥ 土壘とお船松
 - ⑦ 常陸大掾平国香公遺跡之地と鎌倉街道
 - ⑧ 田中集落と田中八幡神社
 - ⑨ 大町の道祖神と植櫻碑
 - ⑩ 旧下田町標柱（「土浦八景」②）
 - ⑪ 海軍住宅について
- ガイド案内を受け、参加者からは、普段暮らしているところでも
- ・ここはこういう所だったのか。
 - ・こんなところ知らなかった。
 - ・土浦八景の内ふたつが文京町に!!
- との声も聞こえた。中には、「実は途中で帰るつもりで参加したが、面白いので最後まで来てしまった。」という方もいたようである。
- 地元のことは知っているつもりでも、意外に知らないことが多くあり、その歴史を紐解き、ここは何なのだろうと思うようなところを深堀してみると色々なことが見えてくるものだと思う一日であった。『灯台下暗し』とはよく言ったものだ。



また、散策しながら町内の方々とおしゃべりも楽しめ、当初の目的も達成することが出来たと思う。

ただし、今回の参加者は比較的年齢層が高めの方が多かった。次の機会があれば、30〜40代の方にも是非参加して身近なところをよく知って戴きたいものである。

今回の案内を担当して戴いた土浦市観光ボランティアガイド協会の方達によれば、またの機会があれば別のコースを提案したいとのことである。

町内会としても次なる企画を計画したい。

同好会だより

動いて愉しく踊って楽しく

土浦スクエアダンスクラブ

会長 丸山 佳博

こんにちは、私たちの土浦スクエアダンスクラブを紹介します。毎週火曜日、月に3回ほど一中地区公民館をお借りして練習しています。

ダンスとはいえ、私たちのダンスはいわゆる社交ダンス的なものではありません。音楽に合わせて身体を動かしていく、ウォーキングつぽい、かつ、平面的な動きのカジュアル的なダンスです。

8名のダンサーと、ダンサーに指示を与えるコーラー1名の9名で成り立ちます。コーラーの指示を聞きながらダンサーは直径約3mの円形状の中で、前後左右に歩き回ります。

アメリカが発祥元で戦後日本に入ってきました。元々は感謝祭、収穫祭などで演じられていました。多勢の人が同時に愉しめる、リズムカルな音楽に合わせる、老若男女が一緒に踊れる、というダンスで日本でも広がってきました。

当土浦クラブは昨年創立10周年を



があり、私たちもその一つです。

いろいろなクラブ、サークルと同じように私たちのクラブでも入会したばかりの新人さんには少し難しいかもしれませんが。覚えることが次から次と続き、途中で退会する人もいます。しかし、一ヶ月、二ヶ月と過ぎ徐々に楽しみが湧いてきて、早く覚えたいとの思いが生まれてきます。そして、上達感さらには達成感に浸っている自分に気が付きます。

私の体験からお話ししますと、仲間ができた、仲間と一緒にいる、また生活時間の一部を満たしてくれるの思いがあります。「今日は練習日」となれば気持ちに張りが出てきます。「もう少し上手になりたい」となると、これは脳活の一つかなとも感じます。

私たちはスクエアダンスを愉しむと同時に助け合いが「要」^{かなめ}になって

迎えました。現在12名の会員です。平均年齢は、いわゆるシニア世代です。茨城県内に20のクラブ

いると考えます。新人さんを応援する、静かに見守る、覚えてきたら皆で喜ぶという具合です。ある意味ボランティア精神に似たところがあります。練習は火曜日、午後の時間帯です。忙しい方も忙しくない方も一度見に来てみてください。お待ちしております。

大きな声を出しましょう！

相撲甚句同好会

会長 高橋 勇治

平成三十年一中地区公民館相撲甚句を唄う講座三回で三十名(講師永須先生の終了後、もつとしつかり知りたいと思う人たちが同好会を作る事になりました。平成三十年八月会員八名で発足しました。

永須先生の熱心な指導の下で皆さん上達致しました。相撲甚句は「前唄」「後唄」「本唄」「はやし唄」「当地興行」からなっており、ドスコイドスコイのかけ声から始まり大きな声で唄うのはカラオケと違つ別の楽しさが有ります。

活動として、一中地区公民館まつりの参加での発表、介護事業所「渚野園」での敬老の日の祭典のアトラ

クション、「渚野園老人ホーム」への慰問、また市の社会福祉事業高齢者会食会での相撲甚句を皆さまに披露し喜んで戴きました。

コロナの間は稽古活動も出来ず休んでおりました。昨年の五月より第一(日曜日)月一回、十八時より二十時迄、新たに素晴らしい講師栗山和彦先生との指導で再開しました。大きな声を出して唄うのは健康にも良いです。

皆様の入会をお待ちしております。

「土浦相撲甚句同好会テーマ甚句」

土浦名物甚句にとけばヨ一

アードスコイ アードスコイ

アー東の水面上に風そよぐ

霞ヶ浦の帆曳船^{ほひきふね} ホイ

西なら学園つくば都市^{とし}

南は牛久の大仏と ホイ

北に望むは筑波山

あいにな万五千石

栄えし土浦城下町 ホイ

春は櫻の花が咲き

夏にはキララに山車みこし^{だし} ホイ

秋なら夜空に大花火

ワカサギ レンコン ヨシキリの

水郷土浦その中で ホイ

相撲が好きで甚句が好き

集^もいて楽しく唄うのは ホイ

土浦相撲甚句のヨーホホイ
アー同好会ヨー

アードスコイ アードスコイ

一緒に楽しみましょう

祭囃子「港龍会」

会長 高野 光稀

「港龍会」は港町を拠点として活動しているお囃子会です。

お囃子が好きで同好会からスタートし、会を立ち上げ数年後には土浦祭囃子会へ加入させて頂く事になり8年目となります。

市のような行事に参加するにつれ他の会との交流を深め、また沢山の経験を積む事で視野も広がり楽しく益々練習に取りこんでいます。

夏祭りは子供達にお囃子を教え、又施設ではお囃子や獅子舞を披露し皆さんの笑顔を見る事がとても嬉しく思います。

ですが、昨年までのコロナですべての行事が中止になり、子供達は太鼓を叩いた事のない子供達が増えてきて、祭り自体にも興味が薄れてきてしまい・・・やっと少しずつ様々な行事が開催される様になり、活気が戻ってきました。昨年の土浦の祭りは久々に楽しく活動する事が出来



ました。

港龍会は

月一回の少ない練習ですが、頑張っています。

ですが、悩みの種は少人数という事と、女性陣の方が多いという事です。何とかメンバーを増やしたいという思いでいた所、2名の男性が入会してくれました。

新体制となったメンバーで楽しく練習に励んでいます。ここに育成会の役員の方々が毎回練習に参加してくれているので賑やかになりました。

踊り手さんも募集しますので、興味のある方は、是非見学にいらして下さい。

メンバー全員で待っています。笑顔で歓迎します!!

文化財を未来へ継承しましょう!

土浦市文化財愛護の会

副会長 飯田 尚生

土浦市は先人が残した貴重な文化

財・遺跡等、数多くの文化遺産がある歴史の街です。

土浦市文化財愛護の会は、昭和52年4月に「土浦市域における文化財について、その研究保護及び活用」に努め、市民の文化財愛護精神と郷土愛を深めるとともに会員相互の親睦を図ることを目的として設立されました。当会は、土浦市からの補助金と文化財保護の普及・啓発活動に賛同する市内外の個人および法人、団体様の会費で運営しています。

私たちには、宝である文化資産を未来に継承していかなければならないという大きな責任があります。

当会が右記の目的のために価値ある活動を行っていきけるよう、是非ともご賛同いただき一人でも多くの方々に会員になつていただけるようお願いいたします。文化財保護・活用に関心のある方であれば、市内外在住を問わずどなたでも入会できます。皆様の御参加をお待ちしております。

〈お問合せ先〉

上高津貝塚・考古資料館

(担当：古橋)

電話：029・826・7111



一中地区公民館
館長

内藤 正弘

昨年四月の人事異動に伴いまして、一中地区公民館の館長に着任しました内藤正弘と申します。

一中地区の皆様には、公民館運営をはじめ、各種事業に、ご支援ご協力をいただいておりますこと、あらためて感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの日常生活もオンライン活用に変わりつつあります。

しかしながら、地区公民館の役割はこれまで以上に地域での交流が重要となりますので、地区拠点としてのまちづくり活動を実施してまいります。

また、地域にお住いの様々な方々と関わりながら、中央支部として地域福祉の推進に取り組んでまいります。

昨年からは、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが五類へ移行したため、感染症対策を実施しながら、公民館まつりを地域の皆様と一緒に開催することができました。

四年ぶりの開催となり、皆様には打合せ不足等により、大変ご迷惑をおかけしましたが、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

電城俳句会

青春の火種燃やせる寒夕焼^{かんゆやけ}

飯島 政和

着ぶくれて音楽会の隅の席

野口 輝子

新しい家族二人に雑煮椀

土井 直子

一つ忘れ二つ忘れて年新た

飯塚 紀美子

散歩道緑のベンチ初景色

鈴木 みち子

短歌

つらつらに咲いては落ちる寒椿

雪降らぬ街に淡き雪欲し

井上 寛江

ひと雨ごと生命はぐくむ春の雨^{いのち}

茶席を飾る著莪楚々と咲く^{しゃが}

櫻井 雅江

赤楽に薄茶一服ふんはりと

点てて寿ぐ初春の朝

瀬古澤 和子

子守り唄雨降りお月さん笑う子に

雨情は彼の小学校校歌

齋藤 順子

バイバイと振りしきみのその右手

ハローとなりてきつとそれでいい

桑田 今日子

愛猫を失くして恋しいあの丸み

膝の上にも布団の中にも

柴沼 恭子

編集後記

今年には正月から能登半島地震、翌日には羽田空港地上衝突事故と気持ちが落ち着かない幕開けとなりました。こんな不安定な時期だからこそ、人とのつながりを大切にしたいと私は感じています。この広報誌「亀城」を通じて地区の皆様のつながりに一つお役に立てればと思います。

この度は原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

(H・I)

(本号の編集担当者)

新井 幸男／田中 久美子

石川 幸子／梅木 逸夫

小野村 一博／小泉 裕司

高橋 瞳／宮口 五郎

山本 敦子／横山 光栄

渡辺 紀子



土浦市社会福祉協議会中央支部事業の紹介

社協支部ななに？

社会福祉協議会とは地域住民やボランティア、保健、医療、福祉等の関係者、行政機関の協力を得て、皆様からいただいた社協会費を財源とし、地域福祉を推進する組織です。

土浦市社会福祉協議会では「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現を目指しています。

市内8中学校区の公民館には、地域住民と密接な関係をもち、協力して地域づくりが行えるよう社協支部として社協職員が1名配置されています。

宅配型食事サービス事業

毎月第2・4水曜日にたまき会が作ったお弁当を高齢者世帯等へお届けしています。

栄養満点の温かいお弁当はお届けする方大変喜ばれています。



小地域お楽しみ会



70歳以上のひとり暮らしの方をお招きし、お楽しみ会を行いました。今年度はウクレレとフラダンス、コーラスや大正琴などを楽しみました。

ひとり暮らし高齢者交流会

70歳以上のひとり暮らしの方を対象に、日帰り旅行を開催しています。同じ地域の方との交流や外出を楽しみに参加されています。

令和5年度は大洗水族館とおさかな市場に行きました。近くで見るイルカショーは迫力がありませんでした。



子育て世帯への支援



子育て世帯の支援の一環で「一中地区子育て世帯を応援する会」と「つくば国際大学高等学校」と協力し、『子ども服おさがり会』を一中地区公民館まつりで開催いたしました。土浦小学校の体操服が大変人気であつというまに売り切れてしまいました。

着れなくなってしまった小学校・中学校の体操服や制服をご提供いただける方がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。

あなたの困りことはみんなの困りこと

社会福祉協議会の職員が解決に向けて一緒に考えていきます。
お気軽に相談してください。



誰もが安心して暮らせるまちづくりの為に

つくる

誰もがいきいきと活動できる住みやすい地域をつくる

つなげる

地域の人とつながろう地域を知ろう

ささえる

困っている人とボランティアをつなぎます

一中地区の相談窓口

〒300-0044 土浦市大手町13-9 (一中地区公民館内)

社会福祉法人 土浦市社会福祉協議会 中央支部

TEL: 029-821-0104 FAX: 029-821-0193

火曜日～日曜日 (月曜日は休館) 8:30～17:15

募集
一緒にまちづくりをしてくれるボランティアを募集中です
興味のある方はご連絡ください。



土浦市社会福祉協議会中央支部の森川です。社会福祉協議会ではこのほかにも様々な事業を実施しています。福祉に関する困りごとがあれば、お気軽にご相談ください。

土浦市社会福祉協議会中央支部
土浦市大手町13番9号
(土浦市一中地区公民館内)
電話029-821-0104